

[3 月度講演会] 「日本の水道、過去・現在・未来水道事業の活性化」

講演者：川西 敏雄 浄水技術研究会 副会長

1. 日本の水道の経過

日本の水道の発展経緯は、①都市への人口集中、生活文化度の向上、工業の発達に対応する水道施設建設の時代（1935～1985）、②上水道、簡易水道等 10,000 箇所以上の浄水場が稼働し、水道普及率 96%になった維持管理の時代（1986～2000）、③水質基準が強化され、より安全・安心な水を供給するための改良・更新の時代（2001～2006）、さらに④経営基盤の強化、広域化、効率化、省エネルギーと環境対策を織り込んだ水道再構築の時代（2007～）に大きく 4 つのステージに分けられ、現在に至る。

2. 水道事業の活性化

「水道業界なぜ構造不況になっているのか」をそれぞれの立場で考える。住民は、水道水質に対する不安を感じているが水道料金は安い方がよく、事業者は人口減少・給水量減少で収入減になり、公的資金も不足し、改造・更新・再構築が進まないのが現状である。厚生労働省は平成 13 年 4 月に改正水道法を施行して民間の参入により経営基盤が強化されることを期待している。

一方、産業界は、コンプライアンスの遵守で「談合」と決別し、過当競争に突入しており、学界は、研究費の不足に伴い、研究活動、研究発表が減少し、水道に魅力を感じる人材が減少している。また、事業者も企業も水道の熟練者が少なくなり、空洞化が発生し、デフレスパイラルのような悪循環で水道業界では活気が無くなっている。

日本の水道を次世代に引き継ぐために水道事業を活性化して再構築する事とが必要である。

3. 今後の方向

水道事業が活性化して「信頼できる確かな水道」を再構築するために、官・学・産がやるべき

ことをまとめると次のとおりである。

① 厚生労働省

特別な補助制度の検討、水道ビジョンの徹底と強力な指導・監視等

② 水道事業管理者・首長

地域水道ビジョンの作成・実行、広域的・長期の水道維持体制、危機管理体制の整備等

③ 水道事業の実務担当者

担当する事業内容の把握、地域水道ビジョンを自分で作成、高度な新技術の修得等

④ 大学・研究機関・学識者

大学は人材育成にあたり技術系から水道事業経営関連にも拡大、国際的に活躍できる人

材の

早期育成等

⑤ 産業界

省エネ、省資源、サイバーテロ対策、IT 導入による監視、制御、記録等の競争力強化等

水道業界に海外の水メジャーに対抗できるような信頼できる事業会社を数社つくること。

将来の海外進出のためにも、水道事業の会計手法や経営手法を研究すること